

令和7年度 第1回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

1 日 時

令和7年4月16日（水） 10:00～12:00

2 開催方法

オンライン開催

3 参 加 者

【長野県立大学】こども学科長 太田 光洋（信州幼児教育支援センター長）

【長野県保育連盟】会長 海野 暁光

【知事部局】	こども・家庭課	保育係長	羽入田 崇司
		自然保育普及推進員	藤田 良子
		保育専門推進員	川上 真実
	県民の学び支援課	幼児教育支援専門員	久保田 学
		主事	太田 菜津恵
	次世代サポート課	青少年指導主事	大日向 洋介
【長野県教育委員会】	教育次長		清水 寛
	教育政策課	主事	倉澤 萌
	学びの改革支援課	課長	一色 保典
		義務教育指導係長	田中 篤
		指導主事	小川 浩貴
		指導主事	小林 輝紀
		幼児教育コーディネーター	橋爪 典子

4 内 容

（1）挨拶：清水教育次長

- 当センター設置の目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。第4次長野県教育振興基本計画では、【「探究県」長野の学び】を掲げ、個人と社会のウェルビーイングを目指している。その根幹が幼児教育、とりわけ遊びにあると考えている。一方、年齢が上がるにつれ、一斉一律の遊びあるいは学びになることにより、子供たちの目の輝きが無くなるのが事実。カリキュラムに沿った指導が中心になること、評価が導入されること、正解を求める学びになるなど、子供が主体的に遊びながら学ぶのに対して、大人が指導する形が多くなり、子供が自分で考えたり、試行錯誤したり失敗したりする機会が減っていることが原因になっていると認識。遊びから学ぶことに家庭も含めて大人がどのように関わっていくのかが大きなテーマになる。幼児期における遊びを通した総合的な指導の充実が、「学びの改革」の基盤となることから、当センターの役割は極めて重要であると認識。
- 遊びを中心とした保育の充実と円滑な園小の接続を目指し今年度も様々な研修を計画している。円滑な園小接続を目指した幼保小架け橋プログラムについても、さらに推進していく所存。最終的にここで培ったノウハウや考え方が、様々な学校種の接続を考える際に、固定された概念に対して一石を投じるものになると認識。
- 本日は皆様方からご意見をいただくことで本年度のセンターの事業の運営の方向を明らかにしたい。忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

(2) 協議

① 令和7年度信州幼児教育支援センター運営方針及び事業内容について

【小川指導主事】(具体的な事業説明)

- ・センターの設置について
- ・遊びを中心とした保育の充実について

【太田センター長】

- ・今年度の運営方針や事業内容について、質問等。

【海野会長】

- ・2019年からフィールド研修を実施してきているが、少しマンネリ化してきていないか。なかなかブレイクスルーにならない。長野県の特徴なのか県外に出ない文化。学びが県外から入ってこない。外を見ないでやっていてよいのか。
- ・フィールド研修実践園の園長は、推進リーダーになるので、マネジメントを学びたい。マネジメントを学ぶと様々な知見が必要となる。フィールド研修は手上げ方式だが、実際は義務感でやっていないか。今年度は幼児教育アドバイザーを増やしたので、アドバイザーの質を上げて、その人たちがおもしろい実践をしている園にコミットしながら、会場園を決め出すようなことを考えてもよいのではないか。

【太田センター長】

- ・アドバイザーが増えたので、そこでの共有は大事になってくる。フィールド研修の手あげ方式は、こちらからの依頼だけでなく、アドバイザーの訪問をきっかけとしてあがってくることもある。

【橋爪コーディネーター】

- ・今年の実践園の中には、アドバイザー派遣の要請をいただいて訪問した園が手をあげてくれている。園に伺って、先生方の心に小さな火を灯せた成果として捉えている。海野先生の広い視野からのご意見も大切に受けてとめて今後の実践園の募集のあり方を考えていきたい。

【小川指導主事】

- ・アドバイザーが増えるということは、それだけ多くの情報が入ってくるものと認識。情報共有しながら、先生方の充実した研修につながるような園の選定につなげたい。

【太田センター長】

- ・全国で様々な実践が行われている。事例として取り上げられるような園の取組と、実際の各園での保育にギャップがある。それを踏まえながら、みんなでどういう方向を目指してやっていくのかという時にマネジメントが大事。アドバイザーが先進的な保育と現状との橋渡しみたいな役割を担えるとよい。
- ・地域自走型研修の充実を目指していこうとする時に、フィールド研修のように自園の保育を公開していくことはどの園でも取り組んでほしいし、各園が成長していけるよう質をしっかりと担保していくことが大事。
- ・園小接続プロジェクトについては、実践園が決まらなかったということだが、そこを担保していくための考えはあるか。

【小川指導主事】(具体的な事業説明)

- ・園小の接続の充実について
- ・文科省新規事業について
- ・県内の園小接続については、課題が多いと認識。
- ・接続カリキュラムの作成ありきで進めるのではなく、その過程を大切にしたい。当センターからも情報提供を行い、大切にしたいことを共有したい。
- ・TOCO-TON ウェルビーイング実践校との連携を図り、園小接続の具体的な取組について紹介

していきたい。

【太田センター長】

- ・園小接続については、小学校の先生の関心を高めていく必要があるところであるし、難しさを感じているところと認識。今後の園小接続の充実について質問等。

【一色課長】

- ・園小接続について何かできることはないかと感じているところ。昨年度、1月に学びの改革フォーラムながのを実施し、当センターのミドルリーダー研修に参加した先生方にもその場で実践発表をしていただいたが、それを小学校の先生方が熱心に聞く姿があり、とてもよかった。小学校の先生方にとって、「幼児教育」「幼年教育」といった言葉は馴染みが少ないため、今後は研修案内等の作り込みも含め情報発信に力を入れる必要があると認識。

【海野会長】

- ・最近、うちの保育を変え始めた頃の卒園児が中学校の生徒会で活躍し始めた。
- ・各地域で悶々としている。園の立場で「こうあってくれたらいいのに」、小学校の立場で「もっとうちで育てて入学してくれてきたらいいのに」など、それぞれに思いがあるはずだが、そこが繋がっていない。互いに相談できる、情報を知っている、そういう関係をつくりたい。
- ・野沢温泉村は、こども・家庭庁の馬場専門官が入っていらっしゃるので、おもしろい取組になってくるかもしれないと注目している。
- ・これからの時代は、学校生活に期待することなど子供の意見を聞く場を設けてほしい。

【太田センター長】

- ・小学校の先生方は時間割を崩せないことが多い。時間割をもう少し柔軟にモジュール化していないと、どうしても時間の枠で子供の活動をとめることになってしまう。その辺りを授業づくりと一緒に考えてもよいのではないかな。園生活で子供が遊び込んできたよさを発揮できるような授業のあり方を考える必要があるし、子供とやりとりしながら授業を組み立てていく視点が必要。

【小林指導主事】

- ・子供の意見を聞くというところに共感。
- ・5年生の子が年長児と交流して、次年度の1年生の不安を解消しようとしたことがあった。

【川上保育専門推進員】

- ・入学後、「いつになったら俺は遊べるんだ？」と毎日つぶやきながら登校していた子供の姿から、「遊びの時間＝業間の時間」としか考えていなかった自分の捉えを見直し始めた小学校教諭の事例。
- ・コロナ禍で園と小の交流が途切れた。その中で、ある小学校の4年生担任が、「この子たちの幼少期の様子を知りたい」と願い、園を訪問した事例。

【海野会長】

- ・ジェームス・ヘックマンの『幼児教育の経済学』は、保育の世界では当たり前知っている。2004年頃からOECDが中心になって、幼児教育・保育にお金を回すようになってきた。市町村教育委員会への働きかけについて、どこに重点的な政策を置くべきか、参考になるのではないかな。
- ・保育を変えていく時も、子供観を変えていく取組が必要。

【太田センター長】

- ・校長先生たちには、接続とか幼児教育の中での子供の学びについて一度話をさせていただく機会をいただいているので、伝えていきたい。

【小川指導主事】（具体的な事業説明）

- ・自立して学び続ける保育者の育成について

- ・地域自走型研修開催の機運向上について
- ・幼児教育推進リーダー会議について
- ・ミドルリーダー研修について

【海野会長】

- ・ミドルリーダー研修については、県外の先進的な実践の視察に行くことはできないか。県がお金を出さなくても、自主的な研修だから、個人負担でもよい。ご飯を食べながら、様々な濃密な関係ができて、つながりができてその後に影響を与える。

【太田センター長】

- ・各種団体が行っている研修との相互乗り入れもしていきたい。

【小川指導主事】

- ・その他（具体的な事業説明）
- ・ドキュメンテーション研修について
- ・総合教育センター幼児教育希望研修について
- ・Instagram開設について

【太田センター長】

- ・ドキュメンテーションをつくることにあまりにもウエイトが置かれすぎるのは心配。保護者の保育の考え方等を伝えるのはよいが、仕事の優先度やそれにかかる時間や労力を考えたい。すごく簡単に言うと、写真を貼るだけでも十分なのかもしれない。

【海野会長】

- ・ドキュメンテーションをつくれば子供主体の保育になるという考え方があるようだが、レッジョ・エミリアでドキュメンテーションが重視されたのは保護者や地域社会に幼児教育・保育の重要性を訴える役目があった。わくわくが保護者に伝わっていくと、保護者が味方になってくれるが、保育そのものが楽しくて子供にわくわくがないといくらドキュメンテーションを作ったところで伝わらないし、つくる方も苦痛になる。ドキュメンテーションは手段であって目的ではないというところの考えも確実に伝える必要がある。例えば、うちの園が実践園の時にバイキング形式の給食を見てもらったが、自園に帰って真似してやってもうまうまいかないという相談を受けた。バイキング形式の給食は手段であって、目的は自分で遊びを切り上げて食べに行くというところを重視することだったが、見に来られた方は「バイキング形式をやれば子供主体になる」と捉えていた。手段と目的はしっかりと切り分けていく必要がある。
- ・チャイムが無い学校が良いと思っているが、チャイムを無くせばそれで良いという話ではない。
- ・保育者同士の交換留学みたいなことができるとよい。園と学校間では免許がないというハードルはあるが、補助のような形でよいのではないか。長野市の園の先生が2日間本園に来てくださったが、そうすると配置基準上職員が余るので、その機会を利用して県外視察に行かせるなど工夫できた。

【太田センター長】

- ・園の先生が学校に行って、一緒に授業プランを考えてみるというのもおもしろいのではないか。そうすると、どのくらい予想される子供の姿の見通しをもっておくか、時間の設定はどうするかなど、具体的に考えることができよさそう。

【久保田幼児教育支援専門員】

- ・これまで当課で行ってきた研修は、総花的な研修が多かった。講師の先生から学んだことを保育に生かしてきた。でも、その後が大事で、研修で学んだことをどう生かしているかというところにもっと入りこんでいかないといけない。
- ・信州幼児教育支援センターのアドバイザーが拡充されるのが非常によいと感じる。現場に

根差した支援ができそう。

- ・園訪問をすると、困ったことについての素朴な質問が多い。そういう声に応えることにウエイトを置きたい。ECEQ コーディネーターの活用を考えたい。

【太田センター長】

- ・具体の実践を支援していくところを大事にしていくところが求められている。事務局としてどう考えるか。

【小川指導主事】

- ・現場の先生方の困り感に寄り添っていくことがどれだけできるか、それがアドバイザーの大事な役割であると認識。理論を学ぶことも大事だが、目の前の子供たちは一人一人違うので現場の先生方の困り感も一つ一つ違う。そんな中でも先生方ががんばってみようと思えるような関わりを大事にしたい。

② 幼児教育関係課の取組について

【羽入田保育係長】（事業説明）

- ・こども・家庭課の取組紹介
- ・保育所等管理者向けマネジメント研修事業について
- ・保育の魅力体感事業について
- ・保育士修学資金貸付等事業について

【藤田自然保育普及推進員】（事業説明）

- ・信州型自然保育（信州やまほいく）に係る研修について

【海野会長】

- ・やまほいくの普及型はどのくらいの割合か。

【藤田自然保育普及推進員】

- ・全体の約5%が特化型、約95%が普及型。普及型のうち、85%が公立園。
- ・園によって温度差はある。
- ・子供が自然に馴染んでいける、自然の中で子供に種をまくことが大事。ただ、散歩につれていくのか、それとも子供が何に興味をもち、どのように伸びていくかということを保育士が意識しながら散歩につれていくか、それによってその後の子供の育ちが変わることを研修で扱いたいと考える。

【久保田幼児教育支援専門員】（事業説明）

- ・研修講座実施計画について

【倉澤主事】

- ・園小接続について関心をもって聞いた。TOCO-TONの取組と関連して進めていくということだが、最終的に地域の中でどう子供を育てていきたいかという願いが共有されるとよい。

③ 令和7年度以降を見据えた取組

【小川指導主事】（事業説明）

- ・幼児教育支援センターの3つの重点に係る今後の取組の見通しについて

【太田センター長】

- ・今日出された様々な意見を追記してほしい。

<事務連絡>

【小川指導主事】

- ・次回の運営会議 令和7年10月23日（木）オンラインにて開催予定